

『まちと暮らし研究』21号 子どもの権利と多様な学び

『まちと暮らし研究』21号を発行しました。今号のテーマは「子どもの権利と多様な学び」といたしました。内容は、一人ひとりの子どもが自分を大切にしながら笑顔で日々を過ごせることの大切さと、それを実現するために私たちの社会の中で行われている多様な取り組みを紹介するものです。

日々の暮らしの中での子育て支援や多様な学び、若者の居場所づくりといった様々な取り組みを紹介し、子どもの権利を改めて考えることで、子どもが遊び、笑い、豊かに育つことのできる社会とはどのようなものか、共に論議できる契機になればと考えました。なによりも、子育てや教育を親や学校だけに押し付けるのではなく、社会や地域が一体となって取り組むための一助となれば幸いです。是非お読みください。



<主な内容>

- ・巻頭エッセイ：子どもの教育を考える
- ・多様な学びの場を求めて—フリースクールの現状とこれから
- ・子どもの権利条約の20年と子どもの学ぶ権利
- ・インクルーシブ教育の現場から
- ・外国人学校の現状と課題
- ・知っている子どものつぶやきから、包容力あるまちづくりへ
—豊島子ども WAKUWAKU ネットワークの活動
- ・社会につながる若者の「居場所」からの報告
- ・子ども・子育て支援の自治に向けて
—身近なところから考える「子ども・子育て支援新制度」
- ・親が協働運営する幼児教育施設：プレイセンター
- ・保育生協「子どものその」での思い出
- ・「ぱる☆キッズ」—パルシステム東京が運営する保育園
- ・多様な学びの可能性と公教育のあり方をめぐる論点—教育を受ける権利の視点から

(著者：敬称略)

- 青山 侑
- 奥地 圭子
- 喜多 明人
- 南館 こずえ
- 大谷 杏
- 栗林 知絵子
- 綿貫 公平
- 相馬 直子
- 佐藤 純子
- 今井 迪代
- 佐藤 健二
- 川口 かしみ

2013年度研究助成 報告論文概要

- ・地域映像アーカイブに関する研究
- ・ソーシャルビジネスとして農業参入に関する研究—生活協同組合を事例として
- ・社会的役割・生きがいを喪失した被災男性高齢者の自己像と適応

- 石原 香絵
- 片上 敏喜
- 吉田 絵里

- 頒価：500円(送料別)
- 発行日：2015年6月20日
- 判型/頁数：A5判/104頁
- 発行：一般財団法人 地域生活研究所

問い合わせ先：一般財団法人地域生活研究所 (担当：三浦)
 TEL：03-6844-7942
 FAX：03-6844-6845

まちづくり研究会 連続講座「まちづくりのいまを考える①」 いま、大都市の復興を考える —神戸から東京へ— 開催

2015年6月12日（金）、まちづくり研究会の連続講座「まちづくりのいまを考える」の第一回公開研究会「いま、大都市の復興を考える—神戸から東京へ—」を公益社団法人東京自治研究センターとの共催で開催しました。

前半では『まちと暮らし研究』20号にも寄稿いただいた、神戸まちづくり研究所の理事長、野崎隆一さんから「復興まちづくりにおける住民主体と合意形成」と題してご報告をいただきました。阪神・淡路大震災からの復興にあたって専門家ボランティアがどのような役割を果たしたかや被災マンションの再建にあたり合意形成などでいかに苦労されたかを、実際の事例や、東日本大震災における防災集団移転の取り組みとの比較を交えてご紹介いただきました。後半では復興まちづくり研究所の濱田甚三郎さんより「大都市東京での事前復興の取組と復興課題」と題して報告をいただきました。東京における復興グランドデザインや復興マニュアルの作成



野崎隆一さん

に携われた経験から、①東京の被害像、②東京での事前復興の取組、③復興プロセスでの仮設市街地、④震災復興まちづくり訓練の展開、⑤東京での復興課題という5点についてご報告をいただきました

当日は17名の参加者があり、報告後、常任理事でまちづくり研究会のメンバーでもある西田穰さんの司会により質疑と議論を行いました。参加者からは専門家ではない一般のボランティアが、復興にどのように携わっているのかや復興の主体となる地域コミュニティのあり方などについて質問があり、活発な質疑と議論が行われました。

最後に、西田さんからは濱田さんの報告にあった「事前復興」はとても大切なキーとなる概念であり、今後も議論を深めていきたいという総括がありました。



濱田甚三郎さん

連続講座「まちづくりのいまを考える」は2015年度さらに2回～3

回の開催を検討しており、今回の議論も参考にしつつ、第2回以降の開催を準備していきます。

★ 生協研究会も開催しました。

2015年6月2日（火）2015年度第1回生協研究会を開催しました。座長の天野晴子日本女子大教授から問題提起をいただいた後、パルシステム東京組織部長の藤方正浩さんより「シニア男性との連携に向けて～事業と活動の担い手としての期待と現実～」と題してご報告いただき、報告を受けメンバー間で議論をしました。生協研究会では、維持会員となっただけではない生協からメンバーを補充するとともに、「シニア男性の生協参加」をテーマに引き続き研究会を重ねていきます。